

(別紙4(2))

事業所名: グループホームほのぼの新館

目標達成計画

作成日: 令和 5 年 12 月 22 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	6	○身体拘束をしないケアの実践 ホームでは身体拘束を実施している入居者はいない。 知識があいまいな職員に対して改めては身体拘束の3原則(切迫性、非代替性、一時性)の理解を深めるとともに、全職員に再周知し取り組むことを理解する。	全職員が身体拘束廃止の重要性を理解し、万一身体拘束を行うケースがあるときは3原則に基づいた行動をとるよう心掛ける。	身体拘束に関して新人研修、現在研修、委員会活動を通して再度理解を深めることで、職員に対しての教育を徹底する。毎月のスタッフ会議の中で身体拘束廃止の受容性をテーマに話を進めることで、職員の意識付けを行う。	3ヶ月
2	35	○災害対策] 災害時において担当する役割を全職員が理解したうえで迅速に行動できるよう改めて災害時の役割担当を確認・周知することが望まれる。第一避難場所の名称(略称)や場所を全職員が認識し、災害時に家族や地域の支援者に伝えることができるよう取り組むことが望まれる。	災害発生時にどの職員も混乱を起こすことがないように、情報の共有を徹底する。	各職員の担当する役割について、職員の話し合いを行い精査する。災害対策に関する基本的な情報については、防災計画とは別に、目につきやすい場所に掲示することで、普段から意識付けを高めるようにする。	3ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。